

職業実践専門課程 学校関係者評価委員会議事録

開催日：2021年8月26日

時間：10時～11時

場所：102号室（ZOOMでのオンライン開催）

●メンバー①：学校関係者評価委員会委員

後山 尚士 (株)ソフトウェア・サービス

岩根 裕典 (株)今日見堂企画

●メンバー②：学内事務局

平岡 憲人 清風情報工科学院 校長

山田 茂 清風情報工科学院 副校長

林 耕平 清風情報工科学院 学科長

土井 佳己 清風情報工科学院 教員

本年度の委員会は新型コロナウイルスの影響で、オンライン会議とした。

■ 2020年度学校関係者評価についての説明および意見交換

(1)教育理念・目標

学校として目指す目標が、在学中に目指すべきゴールが明確であり、学生自らがその時に応じた目標を設定しやすい環境になっていると感じます。

毎週月曜日に行われている全校生徒に向けた朝礼も、学生・教職員ともに目標を再確認する場として、効果的に機能していると感じます。

回答：職員一同が教育理念・目標を共有して、より深く具体的に教育現場に活かしていけるように努力していきます。

(2)学校運営

教育理念を踏まえたカリキュラムをしっかりと立ておられており、新入生に対して、各専攻科へ進級時に面談を行うなど学習面だけでなく、就職まで見据えた適切な学生指導が行われていると感じます。新型コロナ禍の中で難しいことが多いと思われませんが、企業との連携は今後も強化する努力をしてほしい。

学生作品を企業人が評価するイベント「卒業進級制作展示会」が、この状況下で安全面にも考慮して開催できたことは、評価できると思います。

新型コロナウイルス禍の中、ZOOMを活用してオンライン授業への早期の取組を計り、学習に支障が出ないように配慮されている事は評価できる。

回答：企業連携は、まだまだ単発が多いので、年間を通じて連携

できる企業を増やし、企業、学生にとって魅力的な場を数多く定期的に提供できるように努力していきたい。

コロナ禍の中でZOOMを活用することにより、企業担当者との移動時間の無駄が省かれ、今後リアルとオンラインを活用した取組を計りたい。

(3)教育活動

新型コロナウイルスの影響大きく、各企業も先行きが見えにくい状況にある。だからこそ、各企業が新入社員に何を期待しているか、その変化を学生が感じ取る必要があり、学校にはその為の準備をして欲しい。卒業生が実際の現場で感じているリアルな意見を収集できる体制づくりを継続して、より企業、業界のニーズに沿った教育を勧めて欲しい。

シリコンバレーでの短期研修は、学生がワールドワイドなトレンド、フレームワークやニーズを知る貴重な機会であり、オンラインになったとしても継続できて良かったと思う。今後も継続してほしい。

回答：卒業生との連携は継続して深め、卒業生による企業セミナーなども企画していきたい。オンラインも活用して、企業によるワークショップ、現役エンジニアによる作品講評の機会を増やしていきたい。シリコンバレー研修は継続して行い、コロナ禍が収まれば、現地での研修を再開したい。

(4)学習成果

1年次には基礎学力と資格取得を目標としており、オンラインでの授業がメインとなった状況下で、例年とほぼ同数の資格取得が達成されたこと、何より対面してのミーティングが難しい状態で、多くの学生がチーム制作の作品を、例年と遜色ないレベルで展示会に向けて完成させられたことは大いに評価できる。現在、各企業ともテレワークが増加しており、就職後も生きる経験ができたと思う。

そして社会的な課題解決をテーマとした作品も多く、学生の意識向上が感じられる。

卒業進級制作展の様式や作品紹介の動画を編集してホームページにアップして紹介してはどうでしょうか検討ください。

回答：基礎知識と実践的な技術、知識はもとより指摘いただいた社会常識に対してもカリキュラム内に取り入れ教育を行う。特にオンライン授業への工夫にも取り組んでいきます。この先を見据えてコロナ禍が収まった後も、テレワークは続くと考えており、それに対応できる学生育成には引き続き力を注ぎたい。

卒業進級制作展での動画編集にあたって実施できるよう検討を行っていきます。

(5)学生支援

学生の体調やメンタル面について、個々をよく見ていると感じます。特に今年度は、コロナ禍によるオンライン授業で、学生が見えにくい状況であったと思います。今後も安心できない状況であり、今まで以上に学生に寄り添った支援を行っていただきたいと思います。専門学校ではあまり行われていない保護者会や保護者面談などをこの状況でも継続されていて、情報共有や問題解決など、保護者と協力関係が出来ていると思われま

回答：個々への学生への配慮、保護者との連携は、教職員が心掛けて継続します。保護者会では、オンラインでも実施した結果、例年より多く(特に他府県の出身学生)の保護者の参加くださり、今後も会場とオンラインを並行して実施していきたいと思

(6)教育環境

新型コロナウイルスへの対策として、オンライン授業環境づくり「Webカメラ・インターネットの強化・ZOOMソフトの活用研修」、そして各教室にオゾン発生器や消毒液等を設置して、安全確保に努めたことは評価できます。

回答：引き続き学生の安全を第一に考え、状況に合わせた対応を行っていき

(7)学生の受け入れ募集

オープンキャンパスを年間33回も開催されており、また学外広報活動では、高等学校内や会場での進学セミナーに参加し入学希望者に情報を伝える努力をしていると感じる。また、学校のホームページには学生作品・オンライン説明会等の情報が発信されていることで入学を検討する上での判断材料となっている。

回答：入学希望者によりわかりやすく本校の魅力や成果を伝える為、今までの違った環境下で、オンラインを活用した非対面で発信できる努力をしていきます。

(8)財務

このコロナ禍で、経営的に困窮する学校が増えていると聞きますが如何でしょうか。

回答：デザイン・コンピュータ学科は大きな収入減少にはありませんが、日本語学科において、留学生の入国が遅れたり、通常の授業形態が取れない等の理由で（主にオンラインで海外と授業を行っていた為）辞退者が発生し収入に影響が出ています。
今後のコロナの世界的な状況を見ながら経営戦略を検討する所存です。

(9)法令等の遵守

留学生に限らず、法令遵守や社会生活のマナー等については、専用に時間を設けるなど、よく取り組んでいると思います。引き続き、継続して取り組んで下さい。
引き続き客観的に意見・評価をしていきたい。」

回答：継続して行います。

(10)社会貢献・地域貢献

地域の祭礼や清掃活動などに参加する機会はあまり無く、学生にとって貴重な経験になっているかと思えます。引き続き継続して取り組んで下さい。
特に祭礼や清掃は周辺地域の方々に学生の姿を見ていただけるため、大切にしているのが学習面だけでないということを知っていただける良い機会であり、継続して行ってほしい。

回答：継続して行います。

上記をまとめ、2020年度学校関係者評価を作成することで合意した。

以 上